

緊急風しん対策について

1 趣旨

現在、首都圏を中心に風しんが流行しており、横浜市内でも、今年4月18日までの累計報告者数が227人と昨年1年間の報告者数113人を既に大きく上回っている状況です。風しんの流行時期は通常、春から初夏ですので、今後さらに拡大するおそれがあります。

また、風しんの免疫を持たない女性が妊娠中（特に妊娠初期）に感染すると、胎児が、白内障、先天性心疾患、難聴を主な症状とする「先天性風しん症候群」になる可能性があります。

そこで、風しんの流行拡大と「先天性風しん症候群」の発生を防止するための緊急対策として、予防接種費用の一部助成を開始しました。

2 内容

【対象者】

19歳以上の横浜市民で

- ① 妊娠を予定している女性 ※妊娠中は接種不可
- ② 妊娠している女性の夫（婚姻関係は問わない）

※1 麻しん風しん混合（MR）ワクチン又は風しん単独ワクチンの接種歴が2回ある場合を除く。

※2 医療機関窓口で年齢の確認と、男性は母子健康手帳で父親であることを確認。

【対象ワクチン】

麻しん風しん混合（MR）ワクチン1回分（風しん単独ワクチンは助成対象外）

【予防接種実施医療機関】

定期予防接種（MR）協力医療機関約650か所（横浜市医師会の協力により実施）

【市の負担額】

約6,000円（接種費用の約2/3 ワクチン費用相当額を負担）

【接種時の自己負担額】

3,000円（接種費用の約1/3 直接医療機関窓口で支払）

【実施期間】

平成25年4月22日から9月30日まで

3 事業費（概算）

1億2,500万円（平成25年度推計出生数30,542人と20歳以上男女の未接種率データを基に、助成対象者を約2万人と推計して算出）

※4月16日に神奈川県が県内市町村の助成額の1/3を補助すると発表。

4 市民への周知・広報

- ・ 横浜市ホームページ（トップページ掲載）
- ・ ポスター掲示、チラシ配布（協力医療機関、各区窓口及びイベント等）
- ・ 広報よこはま5月号にお知らせ記事掲載予定

裏面あり

【参 考】

風しんワクチン定期予防接種の経緯

昭和 52 年（1977 年） 8 月 中学生女子のみを対象に定期接種開始

平成 7 年（1995 年） 4 月 生後 12 か月～90 か月未満の男女を対象に風しんの定期接種開始

平成 18 年（2006 年） 4 月 MR ワクチン（麻しん、風しん混合）の定期接種（2 回接種）が開始

I 期：生後 12 か月～24 か月未満の間に 1 回接種

II 期：5 歳～7 歳未満で小学校入学前 1 年の間に 1 回接種

平成 20 年（2008 年） 4 月～平成 25 年（2013 年） 3 月末

5 年間の経過措置として III 期、IV 期の定期接種を実施

III 期：中学 1 年生

IV 期：高校 3 年生相当年齢の者

＜風しんワクチン接種状況＞

男 性	個別 接種	経過 +1	措置 回	幼 児 期 に 個 別 接 種 1 回	中学生の時 個別接種 1 回	一回も接種していない		
		幼 児 個 別	幼 児 個 別					
女 性	2 回	経過 +1	措置 回	1 回	1 回	中学生の時 集団接種 1 回		
		幼 児 個 別	幼 児 個 別					
		0 歳	13 歳	19 歳	23 歳	25 歳	34 歳	51 歳
		(平成 6 年生まれ)						